

## 大学における教員養成の取組について

愛知教育大学

## 【教員育成指標の資質・能力との関連】

多様性への理解と教育支援，学校安全・危機管理など

## ＜現代的課題対応科目＞

目的：教育関係の職業に携わる上で，身に付けておかねばならない資質・能力等を身に付けることを目的とした科目で，「特別支援教育基礎」「発達障害のある児童生徒理解基礎」「外国人児童生徒支援教育」「危機管理」の計4科目8単位を全学の必修科目として開設した。

成果：授業終了後に行ったアンケート調査では，①科目の目的や意義の理解ができたと回答した者が96%（4科目平均），②内容や直面している課題の理解が深まったと回答した者が96%（4科目平均），③指導や支援の方法について理解できたと回答した者が91%（4科目平均）だった。

## 【教員育成指標の資質・能力との関連】

児童生徒理解，同僚との連携・協働など

## ＜実践力育成科目＞

目的：教育実習（主免実習及び隣接校種実習）前に，附属学校や国内外の連携協力校，地域社会等の協力を得て行う基礎的な教育体験活動を通して，教育に関わる職業人に必要となる感性を磨き，実践力を高めるための学修意欲喚起を目的として，様々な体験活動（実践力育成科目）を行い，更なる実践的指導力の育成を図る。

科目等：①初年次学校体験活動

9月～10月，大学の夏休み期間を利用，3時間×5回，15時間以上学生の出身地区の学校等で行う。

②学校サポート活動Ⅰ

9月～12月，毎週水曜日午前，3時間×13回，39時間以上県内の教育施設等で行う。

③学校サポート活動Ⅱ，自然体験活動，多文化体験活動，企業体験活動の4科目から1科目を選択

日時は活動先と相談（空き時間を利用），ただし，3年次については原則として前期水曜日1・2限に位置づける，おおむね30時間。

特に多文化体験活動は，自国とは異なる環境や文化，歴史を持つ国を訪問し，教育の原点や価値を自ら見出す。また，さまざまな文化・宗教を背景とした人々と交流し，多様性を受け入れる資質・能力等を身につける。

（H30年度受講者193名，10ヶ国訪問）

上記授業科目をはじめとした本学の多様な授業科目の受講を通し，教職に対し強い情熱，優れた指導力，人間性豊かで，幅広い視野とともに高い専門性を持った人材の育成を図っている。

## 大学における教員養成の取組について

## 愛知県立大学

## 【昨年度までの愛知県立大学における教員養成の重点的な取組みと成果】

## &lt;取組み&gt;

- (1) 社会や学生のニーズに応じた教職キャリア形成支援体制の強化。  
～教職第一志望者を対象とした「教職第一志望者支援プログラム」の実施。  
小学校・中学校・高等学校教諭志望者を対象として、各学校種にふさわしい支援のあり方を追求。
- (2) 本学卒業生の現職教員や学校・教育委員会・総合教育センター等との連携による教職課程履修者を対象とした授業、講習会、研修等を充実化。

## &lt;成果&gt;

- (1) 「教職第一志望者支援プログラム」の対象者の拡大に伴い、各学校種にふさわしい支援のあり方について検討した。小学校教員志望者に対しては全教科対応及び小学校英語に向けた専門的取組み、中高免許志望者とりわけ高等学校教員志望者に対しては現職教員と連携して教科の専門性をいかした実践的な経験交流研修会を実施するなど、それぞれのニーズに対応した教職志望学生へのキャリア支援を推進した。
- (2) 本学卒業生の現職教員との連携により、本学の教職課程履修学生と現職教員との合同授業、研修会を実施した。また、近隣の市教育委員会との連携を強化し、教職課程のカリキュラム（授業等）をより実践的に充実化した。また、スクールボランティア、スクールインターンシップに派遣する学生への研修・対応を強化した。

## 【今年度からの愛知県立大学における重点的な取組み】

## &lt;愛知県立大学の中期目標&gt;（抜粋）

多言語教育や外部人材の登用促進などにより、国際性と地域への視点を兼ね備えた新たな価値を創出する人材、IT・AIなどの技術革新に対応できる人材を育成する。

全学的な取組として、各学部・研究科の持つ強みや特色を生かし、地域の諸課題に積極的に取り組み、地域社会や国際社会の発展に貢献する人材を専門分野を横断して育成する。

## &lt;中期計画&gt;（教職課程に関する抜粋）

本学の特徴をいかした特色ある教員養成を行う。

教職志望者向けの多言語・多文化理解や語学スキルを高める企画・講座への参加を促進する。

教育現場に必要な情報活用能力を高める教育を推進する。

初年次からの全学的な教職志望者支援を強化する。

## &lt;年度計画&gt;（中期計画の初年度）

- (1) 教職志望者の拡大に向け、多言語・多文化理解や語学スキルを高めるために、学生の関心・意識動向を把握する。
- (2) 教職志望者への情報教育の推進を図るため、情報活用・ICT教育の実態・ニーズについて、調査・分析する。
- (3) 初年次学生に対する教職課程の魅力を伝える企画を検討するとともに、教員採用試験を目指す3・4年次学生へのキャリア支援及び外部人材の登用による専門的指導を実施する。

# 大学における教員養成の取組について

名古屋大学

## 【教員育成指標の資質・能力との関連】

児童生徒理解、同僚との連携・協働、システム環境の自覚促進、多様性への理解と教育支援、学校危機管理など

### <実践力育成科目>

目的：教育実践習では、教育現場における危機についての実感を得るため、ロールプレイを活用しているが、教師・生徒間の問題のみならず、多様な関係者の立場から、多角的に問題を分析し、解決するための方策を考えさせている。ロールプレイの役者には、生徒・教師・保護者以外にも、教頭、校長、PTA などの関わりを理解させる。

成果：実際に学校で危機事案が起こる場合、当事者だけでは済まない。システム論的に事案を考えさせるため、直接的に関わっている当事者（教師・生徒）の域を超えて、事案に関わり得るさまざまな人びとの立場や、それぞれの要望・関心を主張させることにより、各人の視点を理解し、的確に対応するための策を経験的に学習させる。また、ロールプレイのデブリーフィングのための時間を十分に取、ふりかえセッションを設けることによって、他の学生の対応のあり方に気づきを促し、学生が相互に学び合う。以上のことは、学生のフィードバックからも言及されているため、高度な教育効果が得られていることがうかがえる。

## 【教員育成指標の資質・能力との関連】

教科外の教育実践について、教員として独自の工夫を行う取り組みを、具体例を通じて学ぶ。

### <特別活動の理論と実践（教科外教育論）>

目的：特別活動は、望ましい集団活動を通して心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる教育活動である。本授業では、教師と児童生徒相互に影響を及ぼし合いながら指導や活動を展開するための特別活動の意義や機能を理解する。あわせて、グループ活動による教材研究とその発表活動を通して特別活動の教育的意義を追求する。

- 内容：
1. 教科外教育の中の特別活動について
  2. 特別活動の内容の変遷と現代社会における意義と役割
  3. 学校教育目標を達成するための全体計画の意義
  4. 特別活動に生かす生徒指導の目的と方法
  5. 特別活動と各教科、道徳、総合的な学習の時間等との関連
  6. 児童会・生徒会活動・クラブ活動の指導とその特質
  7. 学校行事の指導とその特質
  8. 特別活動をボランティア活動や体験活動に生かす

<裏面に続く>

9. 特別活動の評価
10. 教材研究①学級活動（小グループ）
11. 教材研究②児童・生徒会活動（小グループ）
12. 教材研究③学校行事（小グループ）
13. 研究発表①学級活動（全体）
14. 研究発表②児童・生徒会活動（全体）
15. 研究発表③学校行事（全体），全体総括

## 大学における教員養成の新しい取組について

愛知淑徳大学

## ①【教員育成指標の資質・能力との関連】

教育的愛情・使命感・責任感、倫理観・人間性・行動力、児童生徒理解など

## 〈教育の基礎的理解に関する科目〉

科目：「教職入門」1年次必修科目。2単位。

目的：教員という職業の意義、学校での教員の職務と役割など教職全般について、学生の被教育体験や現在の教育現場の実態を踏まえたうえで、今日の学校教育が抱える諸課題について、中央教育審議会答申等を通して考える。

成果：教職を目指すにあたっての基礎知識や心構えを学ぶとともに、教員に求められる資質・能力と照らし合わせ、自らの適性を見つめなおす機会となった。教員の魅力、やりがいを知り、次々と現れる新しい課題に対応するためには、使命感とともに、柔軟で臨機応変な行動力とストレス耐性が必要であるとの認識を新たにした。

この科目を教職課程の入り口とし、他の科目に向けての足掛かりとすることができた。

## ②【教員育成指標の資質・能力との関連】

児童生徒理解、多様性への理解と教育支援、学校安全・危機管理など

## 〈大学が独自に設定する科目〉

科目：「教職インターンシップⅠ」「教職インターンシップⅡ」2・3・4年次選択科目。

2015～2017年度以前入学者2単位、2018年度以降入学者4単位。

目的：「教育実習」に先立つ時期に、1年近い長期にわたって、継続的に教育現場を体験させることにより、教員の仕事や児童生徒の実態、学校全体の流れなどを広く学ぶ。学校教育についての理解を深め、教育現場で求められている実践的指導力を養成する。

成果：最後の授業でのアンケートには、「活動当初は指導もろくにできず、現場の先生に頼り切っていたが、次第に現場にも慣れ、周りを観察し、分析することができるようになった。」「児童生徒への声掛けの工夫ができるようになった。難しい言葉は避け、興味を持ちやすいものに関連づけて説明・指導をするようになった。」など、教育現場へ行く前とその後の、学生の意識や取り組む姿勢の変化が如実に現れた。また、「教員の仕事は、大変さの中にも大きなやりがいがあることが実感できた。実際に教員になる前に現場を見ることができて、覚悟ができた。」とのコメントもあった。

### ③【教員育成指標の資質・能力との関連】

自己教育力・創造的思考力、コミュニケーション力などを教員育成の各ステージにまたがって育成。

支援体制：「愛知淑徳大学 教育に志す者の会（略称：教志会）」

目的：教職を志望する学生と教職に携わっている卒業生とを結ぶ団体。教職に携わる卒業生には、生涯先生を続けていけるように支援する。

年間の試み：2019年度

6月29日（土）ドキュメンタリー映画「みんなの学校」上映会と現役教員であるOB・OGとの対談

8月10日（土）総会・講演会・情報交換会：

講演会演題「個人の尊厳に立脚する教育」元文部科学省事務次官 前川喜平氏

11月下旬 教員採用試験「合格体験発表会」：

2019年度教員採用試験合格者である学部4年生および既卒生を、自治体・校種・教科別に講師として迎え、教員採用試験対策としてどのような力を身につけるべきかをメインテーマに据え、質問を交えながら、体験を聞く会。

1月下旬 教員養成特別講座「教科指導の最前線」：

愛知県総合教育センターとの協定による授業実践講座。

その他、現役教員であるOB・OGと現役学生による勉強会「教志会国語教育研究部会」「教志会英語教育研究部会」を随時開催。

### ④【教員育成指標の資質・能力との関連】

全体

支援体制：『教職課程便覧 教員免許状取得の手引き』に「愛知淑徳大学における教員養成の目標・指標」および「教員採用試験 学習計画（スケジュール）」を掲載し、「教員育成指標」と連動した教員養成教育を保証するとともに4年間の学習スケジュールの周知徹底を図っている。

成果：単に教員を目指すのではなく、採用時に求められる資質・能力が明示されることで、目的意識が明確になり、折に触れ「愛知淑徳大学における教員養成の目標・指標」および「教員採用試験 学習計画（スケジュール）」を確認することでモチベーションの維持につながると、殆どの学生に好評である

各自治体・教育委員会が示す「教員育成指標の資質・能力」を踏まえた教員養成に係る新しい取り組みを通して、より強い意志を持ち、自己更新力と実践力を兼ね備えた教員の育成を図ることが、愛知淑徳大学における教員養成の目標である。

# 大学における教員養成の取組について

中京大学

## 【教員育成指標の資質・能力との関連】

自己教育力・創造的思考力、同僚との連携・協働

### <グループ学習会同窓会>

#### 【目的】

教職の現場で直面する様々な問題について相談するため、中京大学の卒業生が教職センター教職指導官に連絡を取ってくることもある。教職指導官は教員採用試験に向けた『教職グループ学習会』を担当する職員だが、グループで指導を受けた学生たちの強い結束の中心にもなっている。とくに他府県に赴任したものにとっては貴重なつながりだと思料される。

そこで、『教職グループ学習会』のつながりを卒業後も継続させ、赴任地にかかわらず若手教員同士の交流を活発化させていくために、講演会と懇親会の2部構成からなる「同窓会」の取り組みを2018年度から実施している。

さらに、当該年度に卒業予定の学生を加えることにより、それぞれの教育現場へのスムーズな導入を期待している。

#### 【期待される効果】

- 卒業生同士のつながりが強化され、互いに学校現場での課題解決支援や心理的援助が行われ指導力・教育力が向上する。
- 教え教わる関係から学び合う意識（学び続ける教師）が育まれる。研修会等（学ぶ機会）の開催も促進される。
- 熟達した卒業生による中京大学現役生に対する様々な支援体制が強化される。

#### 【2018年度】

開催日時： 2018年10月20日（土）18:00～20:00

参加者： 卒業生55名、在学生（4年）58名

講演会： 卒業生による講演（体験報告）

#### 【2019年度】

開催日時：2019年（令和元年）10月19日（土）16:00～20:00 名古屋キャンパス

講演会： 子ども達に対し心の通じる語り方、想いの通じる語り方など、若手教員が児童・生徒、保護者、上司とコミュニケーションを図る上で役立つ内容（ゲストスピーカー）

## 大学における教員養成の取組について

## 名古屋女子大学

(小学校教員養成を中心として)

## 【教員育成指標の資質・能力との関連】

児童生徒理解、多様性への理解と教育支援など

## ＜体験型学習科目＞

## ①初年次学校活動体験（科目名：建学のこころ）

6月に、本学創立者の建学の精神を学ぶ研修の一環として、東白川小学校との交流会を行っている。大学生は事前に交流会のための計画・準備をした上で、特別支援児童も含めた全校児童と交流を行う。交流会では、様々な遊びやゲーム、絵本の読み聞かせなど行い、児童とのコミュニケーションを体験する。また、約45分間、同小学校教諭の授業を自由に見学し、教員に求められる資質・能力・指導法などについて実感する機会としている。

## ②国際化・グローバル化に対応する教育実践科目（科目名：海外スクールインターナシップ）

国際化・グローバル化の進展に伴い、多文化共生のための異文化理解の重要性が高まるなか、オーストラリアでスクールインターシップやホームステイなどの研修を実践することで、多様性への理解を深めるとともに、広い視野に支えられた主体性や協働性を養う。教科外国語・外国語活動・国際理解教育などに加え、異文化を背景に持つ児童生徒や保護者の支援に必要な力量（知識や表現力を含む）を持った教育者としての資質を育成している。

## 【教員育成指標の資質・能力との関連】

児童生徒理解、地域社会との連携・折衝など

## ＜実践力育成科目＞

## ①課題解決型学習

（科目名：実践課題研究→教科教育法〈模擬授業演習〉→教職実践演習）

教育に関わる課題の発見と対応を、体験的に学ぶ。最終的には、教育に関わる現場への直接取材を基にした調査を行い、説得力ある資料の作成とプレゼンテーションをする。取材交渉等、実際の場での体験を重視している。

## ②協働体験型学習（科目名：社会活動実習）

ボランティア活動に関して単位を認定し、推進している。その内容は学生の自由な選択であるが、教育関連のボランティア活動が多い。

上記の体験に基づく実践力の育成を推進する一方で、入学時点での学生の基礎学力課題への対応として、特別プログラム等を実施している。基礎学力育成プログラムでは、自学自習用の『保育者・教育者を目指す学生のための自習ガイドブック』を作成し、「小学校教育実習指導」、「教育内容演習Ⅰ」等の授業で、小分けの单元ごとに確認テストを実施し、教員としての基礎的学力の確保に努めるとともに、深い学びを可能にする思考力・判断力・表現力の基盤作りを行っている。

教職課程としての教育課程は、上記記載科目の他、現代的課題に対応すべく配置が求められている多様な科目を配しているが、いずれの科目においても、体験やプレゼンテーションを取り入れ、学生の主体的な学びを促すとともに、教員として求められる幅広い資質の育成を図っている。



# 愛知淑徳大学 教職入門

——教育に志す——

2019

## 023210 教職入門

小池 秀男/湯田 喜之/都築 春彦/梅藤 仁志

### 【授業の概要】

「教える」とはどういうことか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかについて、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。さらに、職務の個々の内容について、現在の中学高校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校教育が抱える諸課題について、その問題解決の方途を中教審などの答申から学び、求められている教師像を明らかにする。

### 【授業の目標】

「学制」公布に始まる学校教育制度の歴史的推移を概観し、今日の学校教育が抱える諸課題について理解を深めるとともに、教育の重要性と教師の役割の重大さを知ることによって、学生自らが「教師としての適性」を見極める機会を提供する。

### 【授業計画】

- 第1回 教職とは何かー教員の存在意義と役割ー
- 第2回 近代学校の歴史と変遷 (欧米を中心に)
- 第3回 近代学校の歴史と変遷 (日本を中心に)
- 第4回 近代学校教育の課題
- 第5回 学習指導要領と教育課程
- 第6回 教師をめぐる法律 (日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則など)
- 第7回 教師に求められる資質能力とは何か (いつの時代にも求められる資質能

力)

- 第8回 教師に求められる資質能力とは何か (カウンセリング・マインド)
- 第9回 学校を取り巻く諸問題 ①ーいじめについての取り組み方
- 第10回 学校を取り巻く諸問題 ②ー家庭、地域との連携
- 第11回 教師の服務及び身分保障
- 第12回 教師の職種・職務
- 第13回 教師の専門性と職務・研修と他校及び専門機関との連携、情報交換の仕方
- 第14回 教員の日・一学期・一年の仕事と教員チームの一員としての活動
- 第15回 今日の教育問題をテーマにグループ討論

### 【授業外学習の指示】

1回1回の授業の成果を踏まえ、教育に関するテーマや話題に日常的に関心を持ち理解を深めるとともに、教職を真剣に目指す決意を固める。

### 【評価方法】

授業への取り組み姿勢 (20%)、課題の内容 (30%)、定期試験 (50%) などにより、総合的に評価する。

### 【テキスト】

教職入門 (愛知淑徳大学 教職・司書・学芸員教育センター編) (授業時に配付する)

### 【参考文献・資料】

授業時に参考文献を紹介するとともに資料プリントを配付する。

愛知淑徳大学

教職・司書・学芸員教育センター

## 目次

はじめに	3
第1章 教職とはどのような職業か	5
1. 教職とはどのような職業か	5
2. 教職の歴史	7
第2章 教員の資質	12
1. 一般的に求められる資質	12
2. 未来を見据えた教師の資質	13
3. 前向きに進む教師	13
第3章 教員の資格・身分	14
1. 教員の資格と免許（免許法3、4）	14
2. 免許状の授与資格と効力（免許法5、9、10）	14
3. 教員の使命と身分	15
4. 公立学校教職員の服務規律	16
第4章 教師の1日	17
第5章 教員の仕事	20
1. 学級経営	20
2. 学習指導	22
3. 生徒指導	24
4. 進路指導	26
5. 校務分掌	30
6. 部活動	32
第6章 教員の研修	35
第7章 教員の職種と評価	37
第8章 教員と教育法規	39
第9章 教育課程	41
1. はじめに	41
2. 必履修教科・科目	41
第10章 学校教育の課題	43
0. はじめに：第10章から第12章までの構成	43
1. 歴史的な転換点に立つ社会	43
2. 教育改革の方向性	44
3. 教師の公共的使命	44

第11章 勤務上の課題	45
0. はじめに	45
1. 日本社会の変化	45
2. 教師の仕事の特性	45
3. ライフステージ①：新任時代（採用から3～4年間）	45
4. ライフステージ②：若手から中堅へ（20代後半から30代）	45
5. ライフステージ③：中年期の危機を乗り越える（40代）	46
6. ライフステージ④：ベテラン教師の役割（50代）	46
7. ジェンダーの観点から：女性にとっての教職	46
第12章 教員のメンタルヘルスの現状	47
0. はじめに	47
1. 教員のメンタルヘルスの現状（文部科学省 平成24年1月による）	47
2. 教員のメンタルヘルスに関する取組	48
3. 現状と取組を踏まえた考察	48
第13章 教員採用試験	49
1. 学校の先生になるには	49
2. 国公立学校の場合	49
3. 私立学校の場合	50
4. 採用選考試験対策について	50
5. 教師を志す理由	51
第14章 長期学校ボランティア・学校現場での学習支援活動	54
1. 教員の仕事を学ぶために	54
2. 活動先を見つける方法	54
3. 活動を始めるにあたって	55
4. 教職課程科目「教職インターンシップ」について	55
参考資料	56
1. 日本国憲法	56
2. 教育基本法	57



愛知淑徳大学

教職・司書・学芸員教育センター

## 目 次

I 「教職インターンシップ」とは	3
II 授業シラバス	4
III 事前指導	
1 「教職インターンシップ」の意義と概要	6
2 教員のモラルと心構え	8
3 学校が抱える問題	10
4 学校現場でのマナー	15
5 体験活動先の探し方、依頼の仕方	15
6 打ち合わせ、役割の確認	16
7 計画書、日報等の作成にあたっての留意点	23
8 小・中学校の1日、1年	25
IV 「教職インターンシップ」に関する留意事項	
1 教職体験活動にあたって	36
2 「教職インターンシップ」の心得、注意事項	36
3 体験活動のファイル作成について	38
V 特別支援教育	
1 障害について（障害の種別）	39
2 特別な教育的支援の場	43
3 特別な教育的支援に携わる担当者	45
4 愛知県内の特別支援学校一覧	47
VI その他	49
1 費用について	
2 事故補償について	
3 自転車の貸出について	
自転車使用誓約書	50
VII 様式（計画書、日報、確認印表、報告書）	51

## I 「教職インターンシップ」とは

「教職インターンシップ」とは、教職を目指す学生のための「職場体験・職業体験」のことです。従来から教育現場でのインターンシップは、「学校ボランティア」、「学校インターンシップ」などの名称で実施されてきました。本学においても2014年度以前の入学生に対しては、「学校体験Ⅰ・Ⅱ」という科目名で設置されていました。

この「学校体験Ⅰ・Ⅱ」を発展させたものが、2015年度以降入学生を対象に新設された「教職インターンシップⅠ・Ⅱ」です。1年を通じ、決められた学校(小・中学校、高等学校等)に、特定の曜日・時間に訪問し、学習指導や部活動などに関する補助業務を体験します。限られた期間の教育実習とは違い、長期間継続して活動を行うことによって、多様な教育の実際や児童生徒の変化を見ることができます。

学生にとっては生きた教育現場を体験できる絶好の機会となり、自分が教員に適しているのかどうかを判断する一助にもなります。教壇に立つ前にこれらの業務を経験することは、教員の仕事に関する理解を深め、能力や資質の向上につながります。学生の皆さんは、「教職インターンシップ」に取り組むことによって、実践力のある教師を目指してください。

## Ⅱ 授業シラバス

教職課程科目「教職インターンシップ」は、実際の教育現場に赴き、教職体験活動を行うことにより、実践力のある教師になるための資質向上を目指すことを主旨とする。「教科又は教職に関する科目」とし、教員免許状取得に必要な単位に含む。

### 【科目の概要】

履修年次：「教職インターンシップⅠ」：2年次・3年次・4年次

「教職インターンシップⅡ」：3年次・4年次

活動時間：通常コマによる年間30回の授業に加え、週1回2時間（年間60校時以上を目安とする）の現場体験を行う。

### 【授業の概要】

事前に学校現場についての指導を受け、活動先に赴き計画書を作成する。活動開始後は毎週の授業ごとに担当教員に日報を提出するとともに、活動内容における課題を学生相互に検討し、年次の終わりに報告書を提出する。修得した成果と課題については、総括発表会を行い、学修を深める。

### 【授業の目標】

学校教育についての理解を深め、教育現場で求められている実践的指導力を養成する。

### 【授業計画】

- |      |                         |
|------|-------------------------|
| 第1回  | 事前指導：「教職インターンシップ」の意義と概要 |
| 第2回  | 事前指導：教員のモラル、心構え         |
| 第3回  | 事前指導：学校が抱える問題           |
| 第4回  | 事前指導：学校現場でのマナー          |
| 第5回  | 事前指導：体験活動先の探し方、依頼の仕方    |
| 第6回  | 事前指導：打ち合わせ、役割の確認        |
| 第7回  | 事前指導：計画書作成にあたっての留意点     |
| 第8回  | 事前指導：日報作成にあたっての留意点      |
| 第9回  | 学校現場の1年の流れ              |
| 第10回 | 学校現場の1日の流れ              |
| 第11回 | 学期ごとの役割                 |

第12回	個人情報の扱い
第13回	保護者や地域との関わり
第14回	発達障害をもつ生徒との関わり方
第15回	職員朝礼
第16回	登下校指導
第17回	授業準備
第18回	午前の授業補助
第19回	給食指導
第20回	清掃指導
第21回	午後の授業補助
第22回	休み時間の児童生徒対応
第23回	学級活動
第24回	学校行事（学内）
第25回	学校行事（学外）
第26回	定期テスト前後
第27回	特別支援学級
第28回	部活動指導
第29回	報告書作成にあたっての留意点
第30回	総括

#### 【授業外学習の指示】

- ・立場をわきまえ、行動すること。
- ・報告・連絡・相談（報連相）を徹底し、勝手に判断したり一人で解決しようとしたりしないこと。
- ・個人情報の扱いには十分に注意を払うこと。
- ・事故に注意し、何か起きたら即学校現場と大学に連絡すること。

#### 【評価方法】

計画書・日報・報告書の記載内容をもとに、「合」または「否」を判定する。

※（段階評価ではない）

#### 【テキスト】

「教職インターンシップⅠ・Ⅱの手引き」（本書）

【参考文献・資料】 必要に応じて紹介する。



## 学校の日常・実情を踏まえた教員養成教育の必要性

小倉 斉

OGURA Hitoshi

2018年4月以降の1年間に、新卒で採用された中高の国語科教員3名、採用2年目の高校国語科教員1名、中学校で常勤講師をしている教員1名が、それぞれ複数回、文学部長室を訪れた。「補習授業の準備に追われ通常の授業準備もままならない」、「部活動指導の負担が大きく教材研究ができない」、「担任として問題生徒への対応に疲弊し身体が動かない」、「常勤講師としての業務が負担になり採用試験の勉強が捗らない」等々、慎重に言葉を選びながらぶつけてくる切実な思いに対して老耄大学教師は、「細く長く生きようね」、「僕の好きな言葉は〈いい加減〉〈いい塩梅〉」などと、いい加減な言葉を返す外ないのであった。

2018年8月9日(木)、第4回「教志会」総会において、名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授・内田良さんによる講演会を開催。内田さんは「学校の日常を「見える化」する一部活動改革から働き方改革まで」という演題で、学校の中で当たり前になっている慣行や考え方の問題点について evidence を示しつつ可視化することを目指し、児童・生徒や教師が出遭う様々なリスクについて列挙。教育現場の実情と解決策を示すべく示唆的で興味深いエピソードを紹介された。次々と新たな課題が降りかかり、児童・生徒も教師も大忙しの状況下、教師に求められる資質や能力は益々多様化している。押し寄せる新たな波に柔軟に対応する力を身につけさせるために教員養成教育はどうあるべきなのか。

2017年4月、教育公務員特例法の一部改正法が施行され、教員等の養成・採用・研修を通した一体的な改革を推進するために、地域の実情に応じて、教員等の資質向上に関する育成指標を定め、それを踏まえた教員研修計画を定めることが求められた。これを受けて各教育委員会は、教員養成を担う大学等との共通認識のもと、キャリアを通してそれぞれの段階で求められる資質・能力の向上に努めることを目指し、2018年度までに「育成指標」や「教員研修の目標」を策定したのである。

愛知淑徳大学では、学校現場で遅しく「生き続けていく」ことのできる教員を育成するために2015年「教志会」をスタートさせ、様々な成果を挙げているが、『教職課程便覧2018』に「愛知淑徳大学における教員養成の目標・指標」を掲出し、採用・着任時の教員に対して求められる資質・能力を踏まえた教員養成の目標・指標を明示することとした。

教員が志を貫いていくためには、児童・生徒、保護者、同僚との間に信頼関係を構築することや教育現場に蓄積されている知恵を取り込み「協働」してものごとに当たる姿勢が必要不可欠となる。「教志会」では、「不断の自己更新力」と「協働・同僚性を構築する対人能力」を育成する「場」の提供を目指している。また、実践力を育むために「教職対策講座」を数回開催し、教職経験者・現場教員を招聘し、学生の指導に活かすことを試みている。これには、教育委員会や教育現場との連携強化が必要なことは言うまでもない。さらには、本学出身の現職教員が抱える課題に対して、現場経験豊富な教員がアドバイスを与える機会を提供したいと考えている。まさに、中教審答申言うところの「教員の質や指導力を向上させるため、養成や採用、研修の一体的な「場」として機能する「教志会」は、「学校の日常・実情を踏まえた教員養成教育」を可能にするはずである。

## 【年次報告】2018年度 教志会の歩み

小池 秀男

KOIKE Hideo

あらまし

「愛知淑徳大学 教育に志す者の会（略称：教志会）」（以下、教志会）の4年目の活動を概括し、その特徴と課題を整理して5年目以降の活動の方向性を考察する。

キーワード：可視化 組織化 外部人材

### I 教志会 2018年度の活動

年次計画に従い、以下のような活動を展開した。

- ① 1月31日（水）13時～15時 第4回教員養成特別講座\*
- ② 6月30日（土）13時～16時40分 学校における今日的課題をめぐって
- ③ 8月9日（木）13時20分～17時 第4回総会／講演会／情報交換会
- ④ 11月29日（木）18時30分～20時 教員採用試験 合格体験発表会
- ⑤ 1月31日（木）13時～15時 第5回教員養成特別講座\*\*

\*17年度「教志会会報」原稿締め切り後に実施したので、本稿で報告する。

\*\*本年度「教志会会報」原稿締め切り後に実施予定であるので、来年度報告する。

以下、個々の企画について概要を報告する。

#### ① 1月31日（水） 第4回教員養成特別講座～教科指導の最前線～

長久手キャンパスにおいて、愛知県総合教育センターより講師を招き「第4回教員養成特別講座～教科指導の最前線～」を開催した。

開講講座及び講師、参加学生数は以下の通り。

国語（澤口文利先生＜高校＞：50名）、英語（広瀬八重子先生＜高校＞：25名）、保健体育（香村直廣先生＜中学＞：26名）、小学校（山岸芳樹先生＜国語＞：50名）、特別支援教育（薬丸貴之先生：10名）、幼稚園（岡田智子先生：35名）、以上6講座合計196名。

例年、最も参加者の多いイベントであるが、今年度は昨年度をさらに30名ほど上回り過去最高の参加者となった。学生にも講師の先生にも評価の高いイベントとして定着してきた。

② 6月30日(土) 13時～16時40分 学校における今日的課題をめぐって

春のイベントとして長久手キャンパスで実施。14年度から16年度の卒業生6名に来学してもらい、全体会では、①教科「道徳」の現状と課題 ②「部活動」の現状と課題をテーマに報告を聞き、後半の分科会では、模擬授業を基にして意見交換を行った。新指導要領の実施により学校はどう変わるのか、教員の働き方改革の焦点となっている部活動の指導の実際はどうなっているかなど、学校現場で活躍する卒業生のナマの声を直接聞く機会となった。講師等の詳細は、本稿末の<資料1>「第4回総会議案書 第4号議案「平成30年度 事業計画(案)」」をご覧ください。

参加学生は約60名。行事とのバッティングで教育学科の学生の参加が少なかったが、全体としては昨年の春イベントより倍増した。日程の調整次第ではさらに多数の参加が期待できただけに企画段階でのツメの甘さに課題を残した。

③ 8月9日(木) 第4回総会/講演会/情報交換会

総会に先立ち、昨年同様7月に第3回の役員会を稟議で行い、総会議案の承認を得た。また、総会当日は午後12時50分より役員の打合せを行った。

第4回総会：(1時20分～ 星が丘キャンパス2号館 講堂)

参加者：145名(卒業生17名・在学生94名・教職員27名・一般7名)

以下の4議案について審議し、承認を得た。

第1号議案 「愛知淑徳大学 教育に志す者の会(略称：教志会)」会則の改正について

第2号議案 平成30年度教志会役員(案)について

第3号議案 平成29年度教志会事業報告(案)について

第4号議案 平成30年度教志会事業計画(案)について

第1号議案では、大学内の役員組織の構成の弾力化を図り、教職課程委員会の進路・学生支援部会との連携を強化することを目的として初めての会則改正を行った。また第2号議案では、平成15年度の発足以来教志会の発展にご尽力いただいた星有子会長(弥富市立十四山西部小学校校長)のご退職に伴う勇退と榊原友香新会長(名古屋市立吹上小学校教諭)の就任が承認された。それに伴い、本年度の会員顕彰では、教志会より星有子前会長に感謝状が贈呈された。(星先生は、所用のためご欠席)

なお各議案の詳細については本稿末の<資料1>を参照されたい。

講演会：(14時～15時20分)

参加者195名(卒業生17名・在学生118名・教職員34名・一般26名)

本年度の講演会は、初めて外部より講師を招いて実施した。講師は名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授で「教育という病」「ブラック部活動」などの著書のある内田良先生。教育問題を論じて、今最も注目されている気鋭の教育社会学者である。演題は「学校の日常を『見える化』する ～一部活動改革から働き方改革まで～」。

パワーポイントを駆使し、エビデンスに基づく現状分析と改革に向けた提言には非常に強い説得力が感じられ、あっという間に80分間の講演が終了した。

講師の知名度の高さもあって、一般の学校関係者の参加者も含め、聴衆は今までの講演会で一番多かった。

なお講演会のビデオは、講師の了解もいただきファイル化して教職司書学芸員教育センターに保存してある。教職課程の授業等では是非ご活用いただきたい。

#### 情報交換会（15時30分～17時 5号館4階交流ラウンジ EAST）

参加者 72名（卒業生 9名・在学生 42名・教職員 20名・一般 1名）

講演会後は、会場を交流ラウンジ WEST に移し、情報交換会を行った。情報交換会には、多忙な日程にもかかわらず内田先生も参加され、学生や卒業生と和やかにご歓談いただいた。

総会等の参加者はほぼ昨年の2倍となり、第1回の設立総会を上回り過去最高を記録した。平日開催で、卒業生の参加が難しかった中、在学生、教職員の参加が大きく伸びた結果である。また、例年ほとんどない一般の参加者も多く見られた。講演がタイムリーなテーマで、話題の講師を招聘できたこと、それに伴いインターンシップで学生がお世話になっている地元の学校や教育実習校などに広く広報を行ったことの結果であると思われる。

#### ④ 11月29日（木）18時30分～20時 教員採用試験 合格体験発表会

今年度より開催日時を半月ほど前に移し、会場もミニシアター（長久手キャンパス 11号棟）に変更して実施した。変更の理由は、日時については、3年生の学生の教員採用試験に対する意識を高め、その準備に早めにかかる機会とすること、会場については、より快適な環境での発表を考えたからである。なお、日時の前倒しの結果、例年秋に実施して

いたイベントを割愛し、合格体験発表会の準備を優先させることとした。この結果、講師と担当の教志会学生部スタッフとの事前の打ち合わせがスムーズに進み、内容も充実が見られた。

講師は、現役合格者の中から、国文学科3名（中・高・特支 各1名）、交流文化学科1名（中・英語）、英文学科1名（小）、教育学科2名（小・小<特支> 各1名）、スポーツ健康医科学科3名（中2名、小1名）の10名。それ以外に、講師生活等を経て本年度合格した英文学科の卒業生1名（中）、愛知教育大学教職大学院を経て合格したスポーツ健康医科学科の卒業生1名（小）の2名。合計12名。本年度は、特に複数免許取得プログラムや副専攻プログラム、認定試験などを経て小学校教員合格を勝ち取った学生が目立った。学生の参加は約80名。

今後の課題としては、平日6限の時間帯では、星が丘キャンパスの学生の参加が難しいことが挙げられる。長久手、星が丘両キャンパスでの二度の開催も含め、検討していきたい。

#### ⑤ 1月31日（木） 第5回教員養成特別講座

本年度も愛知県総合教育センターの全面的な協力を得て、2019年1月31日（木）13時から15時の予定で「第5回教員養成特別講座」の開催を予定している。昨年同様、国語、英語、保健体育、小学校、特別支援、幼稚園の6講座を開講する。本稿執筆時点で、参加学生を募集しているところであり、本年度のイベント等への参加傾向から見て、昨年以上の参加者が期待される。

## II その他の活動の状況

昨年度より活動を開始した二つの研修組織の現状について報告する。

### ① 教志会国語教育研究部会の現状

昨年度の年報で報告した以後の活動は、以下の通りである。

第13回例会（参加9名） 1月20日（土） 13時から15時

テーマ：「先輩に聞こう！現場のあれこれ根掘り葉掘り～4年生に希望を与えよう」

第14回例会（参加7名） 2月24日（土） 10時から12時

テーマ：特別支援学校でのこと（学校概要や授業）

レポーター：2017年卒 公手美沙紀先生：愛知県立豊橋特別支援学校

第15回例会（参加7名） 3月24日（土） 10時から12時

テーマ：徒然草「丹波に出雲といふ所あり」の授業

レポーター：国文学科3年 松浦龍一

第16回例会（参加7名） 4月28日（土） 13時から15時

テーマ：初担任学級開き奮闘記～それぞれの新学期を語ろう～

レポーター：2017年卒 清水絢音先生：愛知県立犬山南高校

第17回例会（参加9名） 5月19日（土） 13時から15時

テーマ：宇治拾遺物語「小野篁、広才のこと」 清岡卓行「ミロのヴィーナス」の授業

レポーター：2016年卒 大脇（谷奥）弥生先生 愛知県立新川高校

第18回例会（参加12名） 6月17日（日） 13時から15時

テーマ：中学教材「ちょっと立ち止まって」の授業

レポーター：2016年卒 金森大地先生 鶴沼市立緑陽中学校

第19回例会（参加5名） 7月29日（日） 13時から15時

テーマ：学校現場3ヶ月の実感（18年度採用教員による本音トーク）

第20回例会（参加2名） 10月13日（土） 13時から17時

テーマ：文学散歩「奥の細道 結びの地を訪ねて」

大垣市「奥の細道結びの地」記念館の見学

中心になって活動していた卒業生が学校での3年目の勤務を迎え多忙化したことにより、11月以降活動を休止している。本年度中に組織としての活動体として新体制を整備し、19年度より活動を再開する予定である。

## ② 教志会英語教育研究部会

年度当初に向け組織化の動きが見られたが、その後具体的な活動の展開には至らず、休止状態である。国語教育研究部会同様、組織としての体制の整備が必要だと思われる。

## Ⅲ 19年度以降の活動に向けて

### Ⅲ-1 18年度の課題への取り組みとその総括

17年度の年報では、教志会の活動への参加者の減少傾向に歯止めをかけるべく、18年度以降の活動のテーマとして「教志会の活動の可視化」を掲げ、特に現役学生に対して以下のような取り組みの強化を図った。

- ① 4月当初の「教職課程ガイダンス」で、新入生に対し教志会の意義や活動を紹介し、大学教員の立場からも強力に参加を促してもらう。

- ② 入学直後の「新入生合宿」の中で、上級生から教志会の意義や活動、年間スケジュール等を提示し参加を促す。
- ③ 教志会のイベントの写真を教職司書学芸員教育センターのガラスに掲示して活動をアピールする。
- ④ 大学HPに掲載されたイベントの記事をプリントアウトし、ファイルして教職司書学芸員教育センターに置くとともに、ガラスにも掲示して広報に務める。
- ⑤ イベント参加学生へのポイント制の導入を検討する。

①に関しては、教職司書学芸員教育センターの教員の協力を得て、組織的に実施することができた。②に関しては、国文学科で実施された。①②の直接の効果としては、1年生の行事への参加者数の増加が見られた。③に関しては、教志会学生部スタッフの継続的な取り組みで、ほぼ活動が定着し、一定の宣伝効果を上げていると思われる。④も③と同様に教志会学生部スタッフの活動として実施したが、一般学生の関心を喚起するまでには至らず、期待したような効果を上げているとは言えない状況である。⑤については、具体的な動きを作り出せないままである。

これとは別に、授業内での教志会イベントの広報活動に多くの先生にご協力をいただいた。教志会学生部スタッフの広報活動の許可のみならず、先生自らがお口添えいただいたことにこの場をお借りして感謝申し上げたい。

さらに、教員側の取り組みとしては、教志会会則の改正を行って教職課程委員会の進路・学生支援部会との連携を強化し、行事の企画や卒業生の講師の選定などに学部と連携して積極的に参加いただいた。

こうした取り組みの成果として、18年度はすべての行事で参加学生の増加がみられ、長期的な参加者減に一定の歯止めをかけることができた。

一方で、残念ながら卒業生に対する取り組みでは、十分な成果を上げることはできなかった。総会時の講演会に話題の講師を招きながら、大学の学年暦の関係で平日開催を余儀なくされ、部活動の指導等の校務の関係で参加できなかった卒業生も多く見られた。また、国語教育研究部会や英語教育研究部会のような現職教員の相互研修組織の活動も、多くは教員の多忙化の余波を受け停滞した。

### Ⅲ-2 19年度以降の活動に向けて

前述のような状況を踏まえ、今後とも大学内外での「教志会の活動の可視化」を図っていきたい。その取り組みの重点を以下に記す。

学内に向けては18年度の取り組みの継続の上に、①教職司書学芸員教育センター教職員との連携の強化 ②進路・学生支援部会を通じた学部との連携の強化 ③教志会学生部スタッフの活動の強化 を図りたい。

また卒業生に対しては、先にあげた国語教育研究部会や英語教育研究部会のような現職教員の相互研修組織の活動を支援し、継続的な組織へと育てていく取り組みを強化したい。当面、卒業生と現役学生とからなる運営組織づくりに取り組み、「教職に従事する卒業生と教職を志望する学生を繋ぐ」という教志会設立の本来の趣旨の日常的な実現を図りたいと考えている。

さらに、行事の講師に卒業生以外の外部人材を起用したり、地域の学校や卒業生の在籍校、教育実習校などに対して積極的に行事の案内を行うことで、学外での教志会の認知度を高め、将来の職場環境としての学校と学生とのマッチングを図っていききたいとも考えている。

なお、19年度の総会・講演会・情報交換会は、8月10日（土）午後、講演の講師には、元文部科学事務次官の前川喜平氏を予定している。

#### <資料1>

「愛知淑徳大学 教育に志す者の会（略称：教志会）」第4回 総会 議案書

第1号議案 「愛知淑徳大学 教育に志す者の会（略称：教志会）」会則の改正について

1 「愛知淑徳大学 教育に志す者の会（略称：教志会）」会則を以下のように改正する。

(現行)

第6条 本会に、次の役員を置く。

(1) 会 長 1 名

(2) 副会長 2 名

(3) 幹 事 11名

2 前項の幹事のうちより、会長1名、副会長2名を選出する。

3 前項の副会長は、正会員①、正会員②各1名によって構成される。

4 前項の幹事は正会員①、正会員②各4名及び特別会員3名によって構成される。

5 前項の特別会員3名は、教育学科代表教員、進路学生支援部会代表教員、教職課程助教によって構成される。

(改正後)

第6条 本会に、次の役員を置く。



- (1) 会 長 1 名
  - (2) 副会長 2 名
  - (3) 幹 事 11 名
- 2 前項の幹事のうちより、会長1名、副会長2名を選出する。
  - 3 前項の副会長は、正会員①、正会員②各1名によって構成される。
  - 4 前項の幹事は正会員①、正会員②、及び特別会員によって構成される。
  - 5 (削除)

## 2 改正の理由

役員組織の構成を弾力化することにより、教志会内外の状況に柔軟に対応できる組織とする。当面、教志会と学内の「教職課程委員会 進路・学生支援部会」との連携を密にし、同部会による教志会の活動への支援を強化する。

### 第2号議案 平成30年度「愛知淑徳大学 教育に志す者の会（略称：教志会）」役員（案）

- 会 長：榊原 有香 (② 名古屋市立吹上小学校教諭)
- 副会長：藤原 智子 (② 愛知県立旭野高等学校教諭)
- 副会長：奥村 祐大 (① 文学部国文学科3年：教志会学生会長)
- 幹 事：石黒 将士 (② 豊川市立桜町小学校教諭)
- 幹 事：二宮 羽衣 (① 文学部英文学科2年)
- 幹 事：倉田 隼都 (① 文学部国文学科3年)
- 幹 事：安藤 綾香 (① グローバルコミュニケーション学部グローバルコミュニケーション学科3年)
- 幹 事：加藤 智 (特 文学部教育学科准教授)
- 幹 事：矢野 裕介 (特 健康医療科学部准教授)
- 幹 事：小池 秀男 (特 教職 司書 学芸員 教育センター教授 進路・学生支援部会代表)
- 幹 事：市来 ちさ (特 教職課程助教)

①は正会員①代表、②は正会員②代表、特は特別会員代表

### 第3号議案 平成29年度「愛知淑徳大学 教育に志す者の会（教志会）」事業報告（案）

- 1 役員会（平成29年7月） 文書稟議 総会議案検討／承認
- 2 総 会（平成29年8月5日 13時30分～ 星が丘キャンパス 55A 教室）
  - 参加 92名（卒業生 23名、学生 36名、教職員他 33名）

（議事）

第1号議案 平成29年度教志会役員（案）について

第2号議案 平成28年度「教志会」事業報告について

第3号議案 平成29年度「教志会」事業計画(案)について いずれも承認

(記念講演)

演題「教員生活を振り返って ― 学んだこと、楽しかったこと」

愛知淑徳大学教志会会長 弥富市立十四山西部小学校校長 星 有子 先生

(情報交換会 星が丘キャンパス5号館4階交流ラウンジ EAST)

3 『「教志会」年報』第4号発行(平成30年3月)

4 「教師力養成講座」(研修会)

第1回 平成29年7月1日(土)13時～ 参加31名

「先輩に学ぶⅠ ～先生として生きるということ」

概要:教育現場で活躍する若手教員を招きパネルディスカッションとフリートークを実施。

小学校:市石 慎二 先生(教育学科平成14年度卒:西尾市立白浜小学校)

国 語:佐藤 友香 先生(国文学科平成14年度卒:山県市立桜尾小学校)

英 語:瀧 亜紗美 先生(交流文化学科平成15年度卒:稲沢市立稲沢西中学校)

英 語:船橋 花奈 先生(英文学科平成15年度卒:愛知県立豊田高校)

保健体育:大坪 和将 先生(スポーツ健康医科学科平成14年度卒:各務原市立蘇原中学校)

特別支援:辻 美里 先生(国文学科平成15年度卒:豊橋聾学校)

第2回 平成29年11月25日(土)13時30分～ 参加50名

「先輩に学ぶⅡ ～教えて!“先生”の授業!」

概要:教育現場で活躍中の若手教員による模擬授業とフリートーク

小学校:石黒 将士 先生(教育学科平成17年度卒 豊川市立桜町小学校)

「道徳の授業」

国 語:谷奥 弥生 先生(国文学科平成16年度卒 名古屋市立緑高校)

「最後の除目」(大鏡)

英 語:高木 奈々 先生(英文学科平成17年度卒 豊田市立藤岡中学校)

「New Horizon2 Unit6-2」

社 会:秋田 昂宥 先生(交流文化学科平成16年度卒 東海市立横須賀中学校)

「世界と日本の人口」

保健体育:長谷修 司郎 先生(スポーツ健康医科学科平成14年度卒 愛知県立豊橋西高校)

「身体作り運動」

第3回 平成29年12月15日(金)18時30分～ 参加約60名

「教員採用試験 合格体験発表会」(前半:全体会 後半:校種科目別相談)

概要:本年度の教員採用試験合格者から勉強法や心構えを聞く

講師:現役合格者16名 卒業生の合格者5名

第4回 平成30年1月31日(水)13時～ 約190名参加

「教員養成特別講座(教科指導の最前線)」

概要:愛知県総合教育センターの先生による講座

実施科目・校種:国語、英語、保健体育、小学校(国語)、特別支援教育、幼稚園

## 5 現職教員の研修組織の活動

### ①「教志会 国語教育研究部会」

本学出身の国語科教員と現役学生の合同勉強会。国語教育を中心に、広く教育問題を取り上げ、実践的な研究を行うことを目的とする。

平成29年1月の発足会議以降、毎月1回主として星が丘キャンパスで例会を実施。(平成30年7月時点で18回に及ぶ)

### ②「教志会 英語教育研究部会」

平成29年4月及び5月に研究会を実施。その後、定例化に向けて組織整備を実施中。

## 第4号議案 平成30年度「愛知淑徳大学 教育に志す者の会(教志会)」事業計画(案)

### 1 役員会/総会(平成30年8月9日)

### 2 講演会(8月総会時に実施)

演題:学校の日常を「見える化」する ～部活動改革から働き方改革まで～

講師:名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授 内田 良 先生

### 3 「教志会」年報の発行(3月)

### 4 「教師力養成講座」(研修会)

第1回 平成30年6月30日(土)「学校における今日的課題をめぐって」

全体会 テーマ1 教科「道徳」の現状と課題

テーマ2 「部活動」の現状と課題

#### 分科会

国語:模擬授業 金森 大地 先生(国文学科平成15年度卒 各務原市立緑陽中学校)

英語:模擬授業 磯村 新奈 先生(英文学科平成15年度卒 愛知県立刈谷北高校)

小学校:模擬授業(道徳) 丹羽 舞衣 先生

(国文学科平成 14 年度卒 大垣市立墨俣小学校)

報告：「特別支援学級の現状」高羽 早智 先生

(教育学科平成 15 年度卒 名古屋市立玉川小学校)

特別分科会：「とことん語ろう 部活動」

陣内 浩貴 先生

(スポーツ健康医科学科平成 15 年度卒 一宮市立丹陽中学校・野球部顧問)

小木曾 聖華 先生

(スポーツ健康医科学科平成 16 年度卒 中津川市立第一中学校・陸上部顧問)

第 2 回 平成 30 年 11 月 教員採用試験 合格体験発表会

第 3 回 平成 31 年 1 月 第 5 回教員養成特別講座 (教科指導の最前線)

愛知県総合教育センターの先生方による講座

5 現職教員の研修組織の運営と立ち上げの支援

- ① 教志会 国語教育研究部会の運営 (月 1 回：星が丘キャンパス)
- ② 教志会 英語教育研究部会 (継続的な活動の支援)
- ③ その他の研究組織の立ち上げの支援

以上

## <資料 2>

教志会 第 8 期・第 9 期学生部メンバー一覧

第 8 期：平成 30 年 4 月～平成 30 年 8 月

部長：奥村祐大 (国文学科 3 年) 副部長：二宮羽衣 (英文学科 2 年)

倉田隼都 (国文学科 3 年) 安藤綾香 (グローバルコミュニケーション学科 3 年)

小栗菜野子 (国文学科 2 年) 竹内里奈 (英文学科 2 年)

竹門英恵 (教育学科 2 年) 田中愛美 (教育学科 2 年)

村田真歩 (教育学科 2 年) 森本百香 (教育学科 2 年)

第 9 期：平成 30 年 10 月～平成 31 年 2 月

部長：奥村祐大 (国文学科 3 年) 副部長：村田真歩 (教育学科 2 年)

倉田隼都 (国文学科 3 年) 安藤綾香 (グローバルコミュニケーション学科 3 年)

鷲野祐一 (スポーツ健康医科学科 3 年) 小栗菜野子 (国文学科 2 年)

中間萌奈 (国文学科 2 年) 西山友理 (教育学科 2 年)

近藤穂香 (国文学科 1 年) 砂川智貴 (国文学科 1 年)

## 教員としての適性、教員に求められる資質・能力

学校現場が求める教員、あるいは教師像を以下に掲げます。

### ○愛知が求める教師像

- 1 広い教養と豊富な専門知識・技能を備えた人
- 2 児童生徒に愛情をもち、教育に情熱と使命感をもつ人
- 3 高い倫理観をもち、円満で調和のとれた人
- 4 実行力に富み、粘り強さがある人
- 5 明るく、心身ともに健康な人
- 6 組織の一員としての自覚や協調性がある人

(「平成31年度愛知県公立学校教員採用選考試験受験案内」による)

### ○岐阜県の求める教師像

- 1 幅広い教養と高い専門性をもち、常に学び続ける教師
- 2 誰一人悲しい思いをさせない、愛情と使命感あふれる教師
- 3 指導方法を工夫し、児童生徒に確かな学力をつける教師

(「平成31年度岐阜県公立学校教員採用選考試験について」による)

### ○教員として求める人物像 (三重県)

- \* 教育に対する情熱と使命感をもつ人  
子どもに対する愛情や教育者としての責任感が強く、常に子どもの人格と個性を尊重した指導ができる人
- \* 専門的知識・技能に基づく課題解決能力をもつ人  
常に自己研鑽に努め、子どもとともに課題に取り組む創造性、積極性、行動力をもつ人
- \* 自立した社会人としての豊かな人間性をもつ人  
優れた人権感覚と社会人としての良識に富み、組織の一員として関係者と協力して職責を果たし、子どもや保護者との間に深い信頼関係が築ける人

(「平成31年度三重県公立学校教員採用選考試験実施要項」による)

### ○静岡県教育委員会が求める教員像

“ふじのくに”の未来を担う「有徳の人」を育むために、学び続ける教員

- ◆「基礎的素養」……教育者として求められる使命感、倫理観、教育に対する誇り、教育的愛情の維持・向上を図る教員
- ◆「総合的人間力」……真摯に学び続ける姿勢を持ち、地域社会との関わりの中で豊かな人間性の向上を図る教員。また、「有徳の人」づくりを担う一人として、常に児童生徒の規範となるよう行動する教員

これらを基盤として、キャリアステージに応じて、実践・省察・改善を繰り返しながら、「授業力」「生徒指導力」「教育業務遂行力」「組織運営力」を身に付ける教員

(「平成31年度静岡県公立学校教員募集案内・選考試験要項」による)

### ○名古屋市が求める教師像

専門的な知識と幅広い教養を有し、教育に対する情熱と使命感をもち、健康な体と豊かな人間性を備えた知・徳・体のバランスのとれた人材

(「名古屋市教員採用試験要項」による)

## Ⅱ. 愛知淑徳大学における教員養成の目標・指標

2016年11月、教育公務員特例法の一部改正法が公布され（施行は2017年4月）、教員等の養成・採用・研修を通じた一体的な改革を推進するために、公立学校等の校長及び教員任命権者は、地域の実情に応じて、教員等の資質向上に関する育成指標を定め、それを踏まえた教員研修計画を定めることとされた。教育委員会は、教員養成を担う大学等との共通認識のもと「育成指標」を策定し、キャリアを通してそれぞれの段階で求められる資質・能力の向上に努めることを目指し始めている。教員養成の一端を担う愛知淑徳大学においても、採用・着任時の教員が求められる資質・能力を十分に理解し、教員養成の目標・指標を明示した上で、その実現に向けた教員養成課程の編成と教員養成教育の充実を図ることは急務であると考え、以下に「愛知淑徳大学における教員養成の目標・指標」を掲出するものである。

### 素 養

#### 1. 教育的使命感・責任感

- ①児童生徒の伸長・発展への可能性を正しく捉え、教育的愛情をもって寄り添い、支え、児童生徒の成長に喜びを感じることができる。
- ②児童生徒の育成を真摯に考え、将来を担う児童生徒の成長を請け負う使命感や責任感を自覚している。

#### 2. 倫理観・人間性・実行力

- ①高い倫理観と遵法精神を持ち、児童生徒の模範・手本となるような行動を心がけ、児童生徒との信頼関係を築くことができる。
- ②児童生徒の目標となるような魅力的な人間像を追求できる。
- ③主体的に行動し、地道に、粘り強く、職務に取り組むことができる。

#### 3. 自己更新力・創造的思考力

- ①深く幅広い教養と高い専門性を兼ね備えるとともに、常に自分の現状を相対化し、向上心を持って自ら学び続ける意欲を持っている。
- ②新たな課題・問題に直面しても、しなやかに、したたかに対応するとともに、常に創意工夫を凝らし、ものごとに対処できる。

#### 4. コミュニケーション力

- ①児童生徒や同僚の思いを正しく理解することができる。
- ②自分の考えを分かりやすく伝えるとともに、周囲の状況や相手の思いを踏まえ、共通理解を図りつつ、協働的に行動することができる。

### 教育指導力

#### 1. 児童生徒理解力

- ①児童生徒の発達段階や成長に関わる基礎的な知識を身につけている。
- ②児童生徒理解の意義や重要性を理解し、児童生徒一人ひとりに教育的愛情を持って積極的に関わることができる。

#### 2. 学習指導力

- ①学習指導要領を理解している。
- ②発問や板書、授業の構成、授業環境の整備など、基礎的な指導技術を身につけ、指導計画に従い、児童生徒の実態を踏まえた学習指導を実践しようとする。

### 3. 生徒指導力

- ①生活指導およびキャリア教育の意味を理解している。
- ②生徒個人や生徒集団を指導するための手立て・方法を理解し、実践しようとする。

### 4. 教育・学習支援力

- ①「違いを共に生きる」という多様性への理解に基づく人権感覚を持つとともに、児童生徒の個性を尊重し、個の状況に応じた指導・支援の必要性を理解・認識している。
- ②特別支援教育、外国児童生徒教育、帰国子女教育など、特別な支援を必要とする児童生徒に対する教育の基礎的な知識・方法を身につけ、実践しようとする。

## マネジメント力

### 1. 学級経営力・学年経営力・学校運営力

- ①理想とする児童生徒の姿を思い描き、その実現に向けて実践しようとする。
- ②学校教育の意義や教育に関する今日的課題への認識を深め、教育に関わる情報に意識的・自覚的である。
- ③児童生徒の実態に合わせた学級経営や授業運営の方針を立てることができる。

### 2. 学校安全維持・危機管理能力

- ①学校安全についての基礎的な知識を身につけている。
- ②児童生徒の周りに存在する危機を察知し、回避したり、適切な対応を施したりすることができる。
- ③組織の一員として、求められている役割を理解し、同僚と協働的に物事を進めることができる。
- ④他の教職員と積極的に関わり、疑問点や悩み、課題について相談したり、問題を共有したりしながら、解決策を講じることができる。

### 3. 同僚との連携・協働性

- ①社会人としての良識・責任感を持ち、円滑な人間関係を築くことができる。
- ②組織の一員として、求められている役割を理解し、同僚と協働的に物事を進めることができる。
- ③他の教職員と積極的に関わり、疑問点や悩み、課題について相談したり、問題を共有したりしながら、解決策を講じることができる。

### 4. 保護者・地域社会との連携・協働性

- ①教育公務員としての自覚のもと、社会とのつながりを意識して行動することができる。
- ②家庭、地域、関係諸機関との連携・協働の必要性・重要性を理解し、積極的に関わるることができる。

教員採用試験 学習計画 (スケジュール)

教職・司書・学芸員教育センター

月	1年	2年	3年	4年
	行事	行事	行事	行事
	学習計画	学習計画	学習計画	学習計画
4月	入学式 新入生ガイダンス 文学部教員免許取得プログラム説明会 前期授業開始～7月	履修カルテ説明会・面談 教職教養チャェックテストが5月にある。早めに対策をしよう。 前期授業開始～7月	教育実習直前ガイダンス(小) 教育実習申込ガイダンス(特支) 学級等体験申込ガイダンス(教育) 前期授業開始～7月 川崎市教育委員会説明会 堺市教育委員会説明会	教職アプレハブレーション(中高) 教育実習直前ガイダンス(特支) 前期授業開始～7月 川崎市教育委員会説明会 堺市教育委員会説明会 面接指導開始(集団・個人)～7月
5月	「教職教養基礎問題集」販売(チェックテストのテキスト) 前期授業開始	小学校教員資格認定試験説明会 教職教養チャェックテスト②(中高)	教育委員会説明会(名古屋・市・区) 小学校教員資格認定試験説明会 教育実習(小)～11月	教育委員会説明会(名古屋・市・区) 岐阜・三重 願書の書き方講習 願書の書き方講習 教育実習(中高)～11月
6月	教職課程の授業は、3年後の教員になってから役に立つことばかり。「授業が基本」欠席しないように!	教職力養成企画Ⅰ(教志会)	介護等体験事前指導(教育学科除く) 教職力養成企画Ⅰ(教志会)	教職力養成企画Ⅰ(教志会)
7月	他学科教員免許取得ガイダンス	教志会総会	教志会総会 介護等体験～11月	教員採用試験対策講座(1次) 教員採用試験2次(愛知・名古屋・岐阜・三重) 教員免許状一括申請(1次)
8月	教志会総会	教志会総会 教職教養チャェックテストが9月にある。3回目のテストです。絶対合格を。	教志会総会 介護等体験～11月	教志会総会 教員採用試験対策(2次面接) 教員採用試験2次(愛知・名古屋・岐阜・三重) 教員免許状一括申請(1次)
9月	後期授業開始～1月 教職教養チャェックテストを見ながら、常日頃からテキストを見て重要な箇所を覚えておこう。	後期授業開始～1月 教職教養チャェックテスト③(中高)	後期授業開始～1月 教職履修カルテ提出及び面談(中高)	後期授業開始～1月
10月	教志会総会	介護等体験ガイダンス(小中)	川崎市教育委員会説明会 教職力養成企画Ⅱ(教志会) 教育委員会説明会(愛・岐・三)～12月 教職教養チャェックテスト④(中高)	講師登録説明会
11月	教職力養成企画Ⅱ(教志会)	教志会総会 教職教養チャェックテスト④(中高)	川崎市教育委員会説明会 教職力養成企画Ⅱ(教志会) 教育委員会説明会(愛・岐・三)～12月 愛知県・名古屋市教育実習申込説明会(小) 合格体験発表会(教志会)～1月	教職力養成企画Ⅱ(教志会)
12月	合格体験発表会(教志会)～1月	愛知県・名古屋市教育実習申込説明会(小) 合格体験発表会(教志会)～1月	愛知県・名古屋市教育実習申込説明会(中高) 合格体験発表会(教志会)～1月	教員免許状一括申請(2次) 合格体験発表会(教志会)～1月
1月	教員養成特別講座(教志会)	堺市教育委員会説明会 教育実習申込ガイダンス(中高) 教員養成特別講座(教志会)	堺市教育委員会説明会 教員養成特別講座(教志会)	教職履修カルテ提出及び面談(中高) 教員養成特別講座(教志会)
2月		教職対策講座(東京アカデミー・時事通信社)～3月	教職対策講座(東京アカデミー・時事通信社)～3月	
3月	教職教養チャェックテスト①(中高)	介護等体験申込者ガイダンス(教育学科除く) 教職対策基礎試験(東京アカデミー・時事通信社)～4月	教育実習直前ガイダンス(中高) 教職対策基礎試験(東京アカデミー・時事通信社)～4月	卒業式 教員免許状授与 卒業おめでとう。4年間の思い出をお祝い。我々には「教志会」がある。困ったことがあれば、教職センターまで。教志会の積極的な参加を切望する。